

商品名 リザトリプタンOD錠10mg「TCK」 医薬品基本情報

薬効	2160 血管収縮剤	一般名	リザトリプタン安息香酸塩口腔内崩壊錠
英名	Rizatriptan OD TCK	剤型	錠
薬価	136.20	規格	10mg 1錠
メーカー	辰巳化学	毒劇区分	(劇)

リザトリプタンOD錠10mg「TCK」の効能・効果

片頭痛＜家族性片麻痺性・孤発性片麻痺性・脳底型・眼筋麻痺性片頭痛を除く＞

リザトリプタンOD錠10mg「TCK」の使用制限等

- 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、心筋梗塞の既往、虚血性心疾患又はその恐れ・疑い、異型狭心症、冠動脈攣縮、脳血管障害の既往、一過性脳虚血発作の既往、末梢血管障害、コントロールされていない高血圧症、重度肝機能障害、血液透析中、エルゴタミン投与中、エルゴタミン誘導体含有製剤投与中、5-HT_{1B}/1D受容体作動薬投与中、モノアミン酸化酵素阻害剤＜MAO阻害剤＞投与中、モノアミン酸化酵素阻害剤＜MAO阻害剤＞投与中止2週間以内、プロプラノロール塩酸塩投与中
- WPW症候群
- 心血管系の疾患が認められない、虚血性心疾患又はその恐れ・疑い、重篤な不整脈、冠動脈疾患の危険因子を有する、てんかんを起こしやすい器質的脳疾患、痙攣を起こしやすい器質的脳疾患、脳血管障害又はその恐れ・疑い、WPW症候群、ウォルフ・パーキンソン・ホワイト症候群、心臓副伝導路と関連した不整脈、コントロールされている高血圧症、肝機能障害＜重度肝機能障害を除く＞

記載場所	使用上の注意
注意レベル	禁止

記載場所	重大な副作用
注意レベル	注意

記載場所	使用上の注意
注意レベル	注意

リザトリプタンOD錠10mg「TCK」の副作用等

- 不整脈、狭心症、心筋梗塞、虚血性心疾患様症状、一過性胸痛、一過性胸部圧迫感、虚血性心疾患
- アナフィラキシーショック、アナフィラキシー、重篤な発作性頻脈、てんかん様発作、血管浮腫、顔面浮腫、舌浮腫、咽頭浮腫、浮腫、中毒性表皮壊死融解症、Toxic Epidermal Necrolysis、TEN、呼吸困難、失神、薬剤の使用過多による頭痛

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

3. 傾眠	記載場所	その他の副作用
4. 無力症、疲労、頻脈、高血圧、消化不良、頸部痛、局所性重圧感、局所性絞扼感、筋力低下、顔面痛、頭痛、精神明瞭性減退、不眠症、振戦、運動失調、神経過敏、失見当識、多幸症、咽頭不快感、喘鳴、潮紅、発汗、発疹、霧視、ほてり、温感、味覚異常	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明
5. 倦怠感、脱力、胸痛、冷感、動悸、悪心、嘔吐、下痢、口内乾燥、口渇、腹痛、硬直、めまい、感覚減退、錯感覚、知覚過敏、鼻乾燥、蕁麻疹、皮膚そう痒症、肝機能異常、ALT上昇、AST上昇、CK上昇、光視症、頻尿、食欲減退	記載場所	その他の副作用
	頻度	5%未満
6. 重篤な心疾患、薬剤の使用過多による頭痛、重篤な発作性頻脈、傾眠、めまい、高血圧、血管収縮、心・血管系事象、嘔吐、徐脈、失神、アトロピン反応性3度房室ブロック、失禁	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明

リザトリプタンOD錠10mg「TCK」の相互作用

- 薬剤名等：モノアミン酸化酵素阻害剤投与中止2週間以内

発現事象	-	投与条件	-
理由・原因	-	指示	禁止

- 薬剤名等：エルゴタミン製剤

発現事象	血圧上昇、血管攣縮が増強	投与条件	-
理由・原因	5-HT _{1B} /1D受容体作動薬との薬理的相加作用により、相互に作用（血管収縮作用）を増強	指示	禁止

- 薬剤名等：エルゴタミン誘導体含有製剤

発現事象	血圧上昇、血管攣縮が増強	投与条件	-
理由・原因	5-HT _{1B} /1D受容体作動薬との薬理的相加作用により、相互に作用（血管収縮作用）を増強	指示	禁止

- 薬剤名等：5-HT_{1B}/1D受容体作動薬

発現事象	血圧上昇、血管攣縮が増強	投与条件	-
理由・原因	相互に作用を増強	指示	禁止

- 薬剤名等：MAO阻害剤

発現事象	本剤及び活性代謝物の消失半減期＜t _{1/2} ＞が延長、本剤及び活性代謝物の血中濃度－時間曲線下面積＜AUC＞が増加	投与条件	MAO阻害剤を投与中あるいは投与中止2週間以内
理由・原因	A型MAO阻害剤により本剤の代謝が阻害され、本剤の作用が増強	指示	禁止

- 薬剤名等：プロプラノロール塩酸塩

発現事象	本剤の消失半減期＜ $t_{1/2}$ ＞が延長、本剤の血中濃度－時間曲線下面積＜AUC＞が増加	投与条件	プロプラノロールを投与中あるいは投与中止から錠剤で24時間、徐放製剤で48時間が経過していない
理由・原因	両薬剤の代謝にはA型MAOが関与するため本剤の代謝が阻害され、本剤の作用が増強	指示	禁止

7. 薬剤名等：選択的セロトニン再取り込み阻害剤

発現事象	興奮、頻脈、反射亢進、下痢、発熱、不安、セロトニン症候群、協調運動障害、焦燥	投与条件	-
理由・原因	セロトニンの再取り込みを阻害し、セロトニン濃度を上昇させるため、5-HT _{1B} /1D受容体作動薬との併用により、セロトニン作用が増強	指示	注意

8. 薬剤名等：セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤

発現事象	興奮、頻脈、反射亢進、下痢、発熱、不安、セロトニン症候群、協調運動障害、焦燥	投与条件	-
理由・原因	セロトニンの再取り込みを阻害し、セロトニン濃度を上昇させるため、5-HT _{1B} /1D受容体作動薬との併用により、セロトニン作用が増強	指示	注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』